

研究主題

経験したことを表現豊かに書き表せる児童の育成

—資料編—

1 単元名 「1学期の 思い出を 書こう」

2 単元の目標

- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。

〔知識及び技能〕(1)ウ

- ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な言葉を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

- ・1学期の思い出を紹介する文章を書く。〔関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ〕

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、1学期の思い出の文章に書く言語活動と、書いた文章を紹介し合う活動を設定した。題材については、学校で取り組んできた行事の中から、心に残っているものを一つ選ぶようにする。書くための材料を集めながら、メモをつくり、「はじめ・中・おわり」に気をつけて、構成していく。文章を書く際は、様子がよく伝わるように、聞こえた音や見た色、会話文などを入れるようにする。また、書いた文章を友だちと読み合うことで、説明の不足しているところや付け足した方がよい部分などを伝え、表現豊かな文章となるようにする。単元の最後に、「作文コンテスト」を取り入れることで、児童が意欲的に文章を書いたり、よりよい文章を見つける目も育てたりできるようにしていく。

児童は、これまで1年生時の『つづけて みよう 一日記一』の学習で、毎日の生活を振り返り、日記を書く言語活動を行った。また、書いたものを友だちに見せ、読み合う活動をとおして、自分の体験したことや思ったことについての書き表し方の工夫の仕方などに触れることができた。

(2) 児童の実態（男子12人 女子13人 合計25人） 令和5年6月実施

実態調査の結果から、本学級の児童の12%の児童が国語科の学習を好きではないと答えた。その理由には、「書くことが多いから」とあった。また、「文章を書くことが好きですか」という問いに対して、24%の児童が好きではないと答えた。その理由には、「楽しかったことが多く、選べない」「たくさん字を書くから」「どこを見直せばよいか分からない」が挙げられた。「文章を書くことは、できますか」という問いに対しては、36%の児童ができないと答えた。その理由には、「書くことが思い浮かばないから」「字を丁寧に書かないといけないから」「句読点を打つ位置が分からないから」が挙げられた。「文章を書くときに、難しいと感じることは何ですか」という問いに対しては、「書くことが思い浮かばない」「自分の体験したことを思い出せない」「どんな順番で書けばよいか分からない」などが挙げられた。

(3) 指導観

実態調査の結果から、本学級の児童は、書くことへの抵抗感が強いことが分かった。また、文章の書き方を理解していない児童が多いことも分かった。

よって、本単元では、以下の5つを中心に指導していく。

1つめに、題材を「1学期の思い出」とし、学校で取り組んだ行事の中から選ばせ、どの児童も経験したことを書くようにする。また、どんなことを話したり聞いたりしたかなど、自分の経験したことを思い出せない児童も、友だちに尋ねることで、出来事を思い出することができるようにしていく。

2つめに、「したこと」「見たこと」「聞いたこと」などのメモを書く際、自分で書いたメモを友だちに見てもらい、付け足すとよいところはないか助言をもらうようにする。そうすることで、文章を書くときに、内容を豊かにすることができる考える。

3つめに、文中に、聞こえた音や見たものの色、会話文を入れるようにする。それらを入れることで、どうしてその音がしたのか、なぜそのような会話をしたのかななどを説明するための文章を書く必然性が生まれるようにしていく。

4つめに、句読点の打ち方や「 」の使い方などを身に付けるために、ドリルタイムを活用して問題に取り組ませていく。そうすることで、自分で文章を書くときには、スムーズに書き進められるようにする。また、句読点の打ち方や「 」の使い方などを掲示することで、児童が文章を書く際に、振り返ることができるようにする。

5つめに、単元の最後に、「作文コンテスト」を設け、自分の作文を友だちに評価してもらう時間をつくる。よいと思った作品にシールを貼る活動を取り入れることで、友だちからたくさんシールをもらおうと意欲的に取り組めるようにする。また、シールは1人3枚までとすることで、友だちの文章をよく読み、よりよいものを見つける目を養えるようにしていく。

5 研究テーマとの関わり

研究テーマ「経験したことを表現豊かに書き表せる児童の育成」

本学級の児童は、日記や手紙を書かせたときに、1、2文程度のものしか書けず、内容も「〇〇をして楽しかった。」など、内容も薄く、どんなことがあったのか、伝わりにくいものが多い。そのため、下記の2点を手立てとして、授業を実践していく。

手立て1

聞こえた音や見たものの色、会話文などを入れることで、語彙を豊かにする。

音や色、会話文を入れることで、その状況を説明する必然性が生まれ、様子がよく伝わる文章になるだろう。

手立て2

友だちに書いた文章を見てもらうことで、内容をくわしく書き表せるようにする。

メモから文章に書き表したあとに、友だちに読んでもらうことで、不足しているところや付け足した方がよいところを指摘してもらうことができるだろう。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ)	①経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な言葉を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ③文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(B(1)エ)	①言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとしている。

7 指導と評価の計画（全11時間 本時9/11）

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価基準・評価方法
一次	1	○1学期の思い出について文章を書くことを知り、単元の見通しをもつ。 ○単元計画を立てる。	・1学期の思い出について文章を書くことに興味をもち、単元の見通しをもとうとしている。 (主①)【観察・ノート】
二次	2	○1学期にどんな活動をしてきたかを思い出し、書き出す。 ○一番心に残っている事柄を一つ選ぶ。	・1学期に取り組んだ活動を思い出し、書き出している。 (思・判・表①)【観察・ノート】 ・一番心に残っている事柄を選んでいる。
	3	○「見たこと」「聞いたこと」「話したこと」「思ったこと」などを付箋に書く。	(思・判・表①)【観察・ノート】 ・選んだ事柄について、「見たこと」「聞いたこと」「話したこと」「思ったこと」など必要なことを集めたり、確かめたりしている。
	4	○書いた付箋を友だちと見せ合い、不足しているところを付け足す。	(思・判・表①)【観察・付箋】
	5	○「はじめ・中・おわり」を意識しメモを並び替え、構成を考える。	・友だちの助言をもとに、メモに付け足しをしている。 (思・判・表①)【観察・付箋】 ・時間的順序に気をつけながら、「はじめ・中・おわり」の構成を考えている。
	6	○教員のモデル文を読み、直すべきところを話し合う。	(思・判・表②)【観察・ノート】
	7	○「はじめ・中・おわり」に気をつけて、文章を書く。	・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して使っている。
三次	8	○書いた文章を友だちに見てもらい、助言をもらう。	(知・技①)【観察・ノート】
	9	○助言をもとに、書き直す。	・書いた文章を読んで、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。
	10	○自分の文章を読み返す。	(思・判・表③)【観察・ノート】
11	○作文コンテストを行う。	・友だちの書いた文章を読み、よいところを見つけようとしている。 (主①)【観察・シール・ノート】	

8 本時の指導

(1) 評価規準

- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。
(思考・判断・表現)
- ・友だちの書いた文章を読んで、良かったところや改善すべきところなどを伝えようとしている。
(主体的に取り組む態度)

(2) 研究のテーマとの関わり

- ・聞こえた音や見たものの色、会話文などを入れることで、語彙が豊かな文章を書けるようにする。
- ・友だちに書いた文章を見てもらうことで、内容をくわしく書き表せるようにする。

(3) 展開

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価 ●研究テーマとの関わり	資料
5	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画や前時に書いた文章を確認して本時の活動の見通しをもつことができるようにする。 	単元計画表 掲示物
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> メモをもとに、「中」の文しょうを書こう。 </div>			
15	2 メモを使って、「中」の部分の文章を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序に気をつけて書くことで、どんなことをしたのかが分かりやすい文章になるようにする。 ●聞こえた色や見たものの色、会話文などを入れることで、語彙が豊かな文章を書けるようにする。 ・書き進められない児童には、関わっている友だちに、どんなことを書けばよいか聞いてもよいと声かけをする。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (思考・判断・表現)【観察・ノート】 	付箋 ノート
10	3 書いた文章を見せ合い、よいところや内容の伝わりづらいつころを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに書いた文章を読んでもらうことで、説明の足りない部分はないか、付け足した方がよいところはないかを見つけられるようにする。 ・悩んでいるところがある人は、友だちに相談してもよいことを伝える。 ・助言するところが見つからない児童にはよいところはないか声かけをする。 ●友だちに書いた文章を見てもらうことで、内容をくわしく書き表せるようにする。 ○友だちの書いた文章を読んで、良かったところや改善すべきところなどを伝えようとしている。 (主体的に取り組む態度)【観察】 	
8	4 友だちにもらった助言をもとにして文章を直し、読み返す。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章をすべて消すのではなく、必要な部分だけを直したり、付け足したりするように 	

3	4 友だちとの交流を通して、わかったことを発表する。	<p>声かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直し終わった児童から、自分の書いた文章を読み直すように伝える。 友だちの文章を読んでよかったと思ったことや、友だちからもらった助言から分かったことなどを全体に伝えるようにする。 	
4	5 学習のふり返りと次時の活動の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 今日の活動を振り返り、できたこと、もう少しだったことなどを振り返りカードに書く。 	ふり返りカード

(4) 板書計画

一学きの 思い出を 書こう

⊗
 ×モをもじり、「中」「中」の
 文しよを書こう。

△書くときは
 ・おきたじゆんに書く。
 ・聞こえた音や見たものの色、
 会話文などを入れる。

△友だちの文を読むときは
 ・せつめいのたりないところや
 書きだした方がよいところは
 ないか。
 ・まちがっている字はないか。
 ・「」の書き方。
 ・「は、へ、を」などが正しく
 書けているか。

1 単元名 「がんばっていることをしょうかいしよう」

2 単元の目標

- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。

〔知識及び技能〕(1)ウ

- ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な言葉を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

- ・今、自分のがんばっていることを紹介する文章を書く。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ）

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、児童が自分のがんばっていることについて書く言語活動と、書いた文章を紹介し合う活動を設定した。題材については、今の自分が努力し続けていることについて取り上げる。書くための材料を集めながら、メモをつくり、「はじめ・中・おわり」に気をつけて、構成していく。文章を書く際は、様子がよく伝わるように、その気持ちや考えたこと、会話文などを入れるようにする。また、書いた文章を友だちと読み合うことで、説明の不足しているところや付け足した方がよい部分などを伝え、表現豊かな文章となるようにする。単元の最後に、「作文コンテスト」を取り入れることで、児童が意欲的に文章を書いたり、よりよい文章を見つける目も育てたりできるようにしていく。

児童は、1学期に『つづけて みよう 一日記』の学習で、毎日の生活を振り返り、日記を書く言語活動を行い、2学期も継続して週末に日記を書くことに取り組んでいる。また、書いたものを友だちに見せ、読み合う活動をとおして、自分の体験したことや思ったことについての書き表し方の工夫の仕方などに触れることができた。1学期の思い出を紹介する文も書いており、体験したことについて、自分の考えたことや思ったことなどを交えながら文を書くということに少しずつ慣れてきている。

(2) 児童の実態（男子12人 女子13人 合計25人） 令和5年12月実施

実態調査の結果から、本学級の児童の20%の児童が国語科の学習を好きではないと答えた。その理由には、「書くことが多いから」「文を書くことが嫌いだから」とあった。また、「文章を書くことが好きですか」という問いに対して、44%の児童が好きではないと答えた。その理由には、「文字を間違ったり、漢字が難しかったりする」「短い文は書けるけど、長い文は書けない」「長い文章が思いつかない」が挙げられた。「文章を書くことは、できますか」という問いに対しては、36%の児童ができないと答えた。その理由には、「間違いが多い」「字が雑になる」「小さい字を入れられない」「難しいから」「漢字が苦手」が挙げられた。

(3) 指導観

実態調査の結果から、本学級の児童は、長い文章を書くことへの抵抗感があることが分かる。

しかし、1学期から継続して文章を書くことを取り入れてきたことで、書くことが得意と感じたり、書くことに楽しさを見いだしていたりする児童も増えてきている。

よって、本単元では、以下の5つを中心に指導していく。

1つめに、題材を「自分がかんばっていること」とし、学校や家庭で自分が努力し続けていることの中から書くようにする。児童の中には、自分のしたことや日記を書くことが好きだと感じている児童が多いため、今回の題材に対して、意欲的に取り組めるのではないかと考える。

2つめに、「がんばろうと思ったきっかけ」「どんなふうに取り組んでいるのか」「努力してみてもうまくなかったこと」「できるようになってきて思ったこと」などのメモを書いていく。その際に、まず目のついたワークシートを活用し、書く分量の目安を示すことで、長い文章を書くことに抵抗のある児童や長い文章を読み直すことに抵抗のある児童が取り組みやすいようにしていく。また、書いた文章を自分で読み直した後に、友だちにも見てもらうことで、書き間違いや思ったことや気持ちなど付け足すところはないか、助言をもらうようにする。そうすることで、文章を書くときに、正しく書いたり、内容を豊かにしたりできると考える。

3つめに、促音の表記や句読点の打ち方、「」の使い方などを身に付けるために、ドリルタイムを活用して問題に取り組ませていく。そうすることで、自分で文章を書くときには、スムーズに書き進められるようにする。また、句読点の打ち方や「」の使い方などを掲示することで、児童が文章を書く際に、振り返ることができるようにする。

4つめに、友だちの文章を読む際、「様子が詳しく書けているか」「誤字脱字はないか」「漢字で書けるところはないか」「会話文の書き方は合っているか」「助詞や拗音、促音などの表記に誤りはないか」など、見る視点を示すようにする。そうすることで、友だちの書いた文章の不足している部分が明らかになったり、自分で文章を読み直した際にも間違いに気づけたりするようになると思われる。

5つめに、単元の最後に、「作文コンテスト」を設け、自分の作文を友だちに評価してもらう時間をつくる。「会話文が多い」「」の中から一番優れていたところに1枚シールを貼ることで、グループの全員から内容の良かったところを評価してもらえらるようになるとともに、よりよいものを見つけられる目を養えるようにしていく。さらに、グループの中で一番よいと思った作品にシールを貼る活動を取り入れることで、友だちからたくさんシールをもらおうと意欲的に取り組めるようにする。

5 研究テーマとの関わり

研究テーマ「経験したことを表現豊かに書き表せる児童の育成」

本学級の児童は、長い文章を書くことに対して抵抗感が強く、また、したことについて、詳しく書くことが苦手な児童がいる。そのため、下記の2点を手立てとして、授業を実践していく。

手立て1

思ったことや考えたこと、会話文などを入れることで、語彙を豊かにする。

「がんばろうと思ったきっかけ」「どんなふうに取り組んでいるのか」「努力してみてもうまくなかったこと」「できるようになってきて思ったこと」について説明する文章や会話文を入れることで、様子がよく伝わる文章になるだろう。

手立て2

友だちに書いた文章を見てもらうことで、内容をくわしく書き表せるようにする。

文章に書き表した後に、友だちに読んでもらうことで、不足しているところや付け足した方がよいところを指摘してもらうことができるだろう。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ)</p>	<p>①経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な言葉を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア)</p> <p>②語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ)</p> <p>③文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。 (B(1)エ)</p>	<p>①言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとしている。</p>

7 指導と評価の計画（全11時間 本時9/11）

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価基準・評価方法
一次	1	<p>○自分がかんばっていることについて文章を書くことを知り、単元の見通しをもつ。</p> <p>○学校や家庭で、自分が努力して取り組み続けていることを思い出し書き出す。</p>	<p>・自分がかんばっていることについて文章を書くことに興味をもち、単元の見通しをもとうとしている。 (主①)【観察・ノート】</p> <p>・学校や家庭で、自分が努力して取り組み続けていることを思い出し、書き出している。 (思・判・表①)【観察・ノート】</p>
二次	2 3 4	<p>○一番書きたい事柄を一つ選ぶ。</p> <p>○選んだ事柄について、メモを書く。</p> <p>○書いたメモを友だちと見せ合い、不足しているところなどを付け足す。</p>	<p>・一番書きたい事柄を選んでいる。 (思・判・表①)【観察・ノート】</p> <p>・選んだ事柄について、必要なことを集めたり確かめたりしている。 (思・判・表①)【観察・付箋】</p> <p>・友だちの助言をもとに、メモに付け足しをしている。 (思・判・表①)【観察・付箋】</p>
	5	<p>○「はじめ・中・おわり」を意識してメモを並び替え、構成を考える。</p>	<p>・時間的順序に気をつけながら、「はじめ・中・おわり」の構成を考えている。 (思・判・表②)【観察・ノート】</p>
	6 7 8 9 (本時)	<p>○教員のモデル文を読み、様子が詳しく伝わる文になるように直すべきところを話し合う。</p> <p>○「はじめ・中・おわり」に気をつけて、文章を書く。</p> <p>○書いた文章を友だちに見てもらい助言をもらう。</p> <p>○助言をもとに書き直す。</p>	<p>・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して使っている。 (知・技①)【観察・ノート】</p> <p>・書いた文章を読んで、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 (思・判・表③)【観察・ノート】</p>

	10	○自分の文章を読み返す。	
三 次	11	○作文コンテストを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの書いた文章を読み、よいところを見つけようとしている。 <p>(主①)【観察・シール・ノート】</p>

8 本時の指導

(1) 評価規準

- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。
(思考・判断・表現)
- ・友だちの書いた文章を読んで、良かったところや改善すべきところなどを伝えようとしている。
(主体的に取り組む態度)

(2) 研究テーマとの関わり

- ・思ったことや考えたこと、会話文などを入れることで、語彙が豊かな文章を書けるようになる。
- ・友だちに書いた文章を見てもらうことで、内容をくわしく書き表せるようにする。

(3) 展開

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価 ●研究テーマとの関わり	資料
5	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画や前時に書いた文章を確認することで本時の活動の見通しをもつことができるようにする。 	単元 計画表 掲示物
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ようすがよくつたわる文になっているか、たしかめよう。 </div>		
15	2 メモを使って、「中」の部分の文章を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序に気をつけて書くことで、どんなことをしたのかが分かりやすい文章になるようにする。 ●思ったことや考えたこと、会話文などを入れることで、語彙が豊かな文章を書けるようにする。 ・書き進められない児童には、メモに書いたことを、順番に書き進めればよいことを声かけする。 <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (思考・判断・表現)【観察・ノート】</p>	ワーク シート
10	3 書いた文章を見せ合い、よいところや内容の伝わりづらいつころを伝え合う。 <友だちの文を読むとき> <ul style="list-style-type: none"> ・ようすがよくつたわるか。 ・何回か声に出して読む。 ◇ようすをくわしくつたえるには いつ だれ	<ul style="list-style-type: none"> ・見る視点を与えることで、直したり、付け足したりした方がよいところを見つけられるようにする。 ・悩んでいるところがある人は、友だちに相談してもよいことを伝える。 ・助言するところが見つからない児童にはよいところはないか声かけをする。 ●友だちに書いた文章を見てもらうことで、 	

	<p>どんなこと 何のために どんなふうに どれくらい ◇きもちをあらわすことば くやしい うれしい かなしい たのしい</p>	<p>内容をくわしく書き表せるようにする。 ○友だちの書いた文章を読んで、良かったところや改善すべきところなどを伝えようとしている。(主体的に取り組む態度)【観察】</p>	
8	4 友だちにもらった助言をもとにして、文章を直し、読み返す。	<ul style="list-style-type: none"> 文章をすべて消すのではなく、必要な部分だけを直したり、付け足したりするように声かけをする。 直し終わった児童から、自分の書いた文章を読み直すように伝える。 	
3	5 友だちとの交流を通して、わかったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの文章を読んでよかったことや、友だちからもらった助言から分かったことなどを全体に伝えるようにする。 	
4	6 学習の振り返りと次時の活動の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 今日の活動を振り返り、できたこと、もう少しだったことなどを振り返りカードに書く。 	<p>振り返りカード</p>

(4) 板書計画

気もちをあらわすことば

よつすをくわしくしたえるためには

一 友だちの文を読むときには
 二 よつすがつたわるか。
 三 何回か読む。

「どんなふうに取り組んでいるのか」
 「うまくいかなかったこと」
 「できるふうになってきて思ったこと」

・思ったことや考えたこと、会話文などを入れる
 ・おきたじゆんに書く。
 ・書いたことや考えたこと、会話文などを入れる

④ よつすがよくつたわる文になっているか、たしかめよう。

がんばって書いてほしいよ

1 単元名 「心にのこっていることを書こう」

2 単元の目標

- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。

〔知識及び技能〕(1)ウ

- ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な言葉を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)エ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

- ・1年間の中で心に残っている思い出について文章を書く。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、児童が1年間で心に残っていることを書く言語活動と、書いた文章を紹介し合う活動を設定した。題材については、学校生活の中の思い出について取り上げる。書くための材料を集めながら、メモをつくり、「はじめ・中・おわり」に気をつけて、構成していく。文章を書く際は、様子がよく伝わるように、気持ちや考えたこと、会話文などを入れるようにする。また、書いた文章を友だちと読み合うことで、説明の不足しているところや付け足した方がよいところ、また、今回の内容に関係のないことが書かれているところなどを伝え、表現豊かでの確な文章が書けるようにする。単元の最後に、「作文コンテスト」を取り入れることで、児童が意欲的に文章を書いたり、よりよい文章を見つける目が養えたりできるようにしていく。

児童は、1学期に『つづけて みよう 一日記』の学習で、毎日の生活を振り返り、日記を書く言語活動を行い、2学期、3学期も継続して週末に日記を書くことに取り組んでいる。また、書いたものを友だちに見せ、読み合う活動をとおして、自分の体験したことや思ったことについて語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるような文章の書き方などに触れることができた。1学期の思い出を紹介する文や自分が頑張っており取り組んできたことについての文章も書いており、体験したことについて、自分の考えたことや思ったことなどを交えながら文を書くということに慣れてきている。

(2) 児童の実態 (男子12人 女子13人 合計25人) 令和6年3月4日実施

実態調査の結果から、本学級の児童の16%の児童が国語科の学習を好きではないと答えた。その理由には、「書くことが多いから」「文を書くことが嫌いだから」とあった。また、「文章を書くことが好きですか」という問いに対して、38%の児童が好きではないと答えた。その理由には「文字を間違ったり、文字が丁寧に書けなかったりするから」「文を書くことが苦手だから」などが挙げられた。「文章を書くことはできますか」という問いに対しては、64%の児童ができないと答えた。その理由には、「難しいから」「苦手だから」などが挙げられた。

(3) 指導観

実態調査の結果から、本学級の児童は、文章を書くことへの抵抗感があることが分かる。1学期から継続して文章を書くことを取り入れてきたことで、楽しさを見いだし、書くことが好きになっている児童が増えてきた一方で、自分が理想とする文章が書けないことに悔しさを感じている児童も生まれ始めている。

よって、本単元では、以下の5つを中心に指導していく。

1つめに、題材を「一年間の思い出」とし、学校生活の中で心に残っていることを書くことで、児童が意欲的に取り組めるようにする。楽しかったことや悔しかったことなど、児童の心が最も大きく動いた事柄を選べるようにしていく。

2つめに、「なぜその事柄を選んだのか」「どのようなことが特に心に残っているのか」「そこから思ったことや考えたこと」などのメモを書いていく。また、書いた文章を友だちにも見てもらい、思ったことや気持ちなど、付け足すところはないか、書きたい内容に関係のない文章は含まれていないか、助言をもらうようにする。そうすることで、表現豊かで的確な文章を書くことができるようになる。

3つめに、促音の表記や句読点の打ち方、かたかなで表記する言葉などを身に付けるために、ドリルタイムや授業の初めの時間などを活用して問題に取り組ませていく。そうすることで、自分で文章を書くときには、スムーズに書き進められるようにする。また、句読点の打ち方や「」の使い方などを掲示し、児童が文章を書く際に、振り返ることができるようにする。

4つめに、友だちの文章を読む際、「様子が詳しく書けているか」「関係のない文章はないか」ということを見る視点で示していく。そうすることで、友だちの書いた文章のどのような部分を見ればよいか明らかになると考える。また、文章を書いた後に、自分の悩んでいることを友だちに相談できる時間を設け、自分の課題としている部分について助言をもらうことができるようにする。

5つめに、単元の最後に、「作文コンテスト」を設け、自分の作文を友だちに評価してもらう時間をつくる。伝えたいことがよく伝わる文章なのかということに注目させ、「よく書けている」「書けている」「がんばりました」の3種類のシールを使って、グループの全員から評価してもらえるようにする。その際、どの児童も「よく書けている」「書けている」のシールは1枚ずつにし、グループの中で一番よいと思ってもらえるように書こうとする児童の意欲へつなげられるようにする。

5 研究テーマとの関わり

研究テーマ「経験したことを表現豊かに書き表せる児童の育成」

本学級の児童は、長い文章を書くことに対して抵抗感が強く、また、したことについて、詳しく書くことが苦手な児童がいる。そのため、下記の3点を手立てとして、授業を実践していく。

手立て1

前単元と学習の流れを同じにすることで、見通しをもって取り組めるようにする。

文章を書くことにおいて、前単元と学習の流れを同じにすることで、児童は次にどのようなことをするかという見通しをもて、安心して学習に取り組んだり、学習を進めたりすることができるだろう。

手立て2

思ったことや考えたこと、会話文などを入れることで、語彙を豊かにする。

「なぜその事柄を選んだのか」「どのようなことが特に心に残っているのか」「3年生になったら」などについて説明する文章や会話文を入れることで、様子がよく伝わり、分かりやすい文章になるだろう。

手立て3

友だちに書いた文章を見てもらうことで、内容をくわしく書き表せるようにする。

文章を書いた後に、友だちに読んでもらうことで、「様子が詳しく書けているか」「関係のない文章はないか」などを指摘してもらったり、自分の悩んでいることを友だちに相談し、解決したりすることができるだろう。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ)	① 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な言葉を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) ② 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) ③ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。 (B(1)エ)	①言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

7 指導と評価の計画 (全11時間 本時9/11)

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価基準・評価方法
一次	1	○自分がかんばっていることについて文章を書くことを知り、単元の見通しをもつ。 ○単元計画を立てる。	・自分がかんばっていることについて文章を書くことに興味をもち、単元の見通しをもとうとしている。 (主①)【観察・ノート】
二次	2	○学校であった出来事を思い出し書き出す。 ○一番書きたい事柄を一つ選ぶ。	・学校や家庭で、自分が努力して取り組み続けていることを思い出し、書き出している。 (思・判・表①)【観察・ノート】 ・一番書きたい事柄を選んでいる。 (思・判・表①)【観察・ノート】
	3	○選んだ事柄についてメモを書く。	・選んだ事柄について、必要なことを集めたり確かめたりしている。 (思・判・表①)【観察・付箋】
	4	○書いたメモを友だちと見せ合い、不足しているところを付け足す。	
	5		
	6	○「はじめ・中・おわり」を意識しメモを並び替え、構成を考える。	・友だちの助言をもとに、メモに付け足しをしている。 (思・判・表①)【観察・付箋】
7	○教員のモデル文を読み、直すべきところを話し合う。	・時間的順序に気をつけながら、「はじめ・なか・おわり」の構成を考えている。 (思・判・表②)【観察・ノート】	
8	○「はじめ・中・おわり」に気をつけて、文章を書く。	・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ	

	9 (本時) 10	○書いた文章を友だちに見てもらい 助言をもらおう。 ○助言をもとに、書き直す。 ○自分の文章を読み返す。	(「」)の使い方を理解して使っている。 (知・技①)【観察・ノート】 ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (思・判・表②)【観察・ノート】 ・書いた文章を読んで、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 (思・判・表③)【観察・ノート】 ・友だちの書いた文章を読んで、良かったところや改善すべきところなどを伝えようとしている。 (主①)【観察・付箋】
三 次	11	○作文コンテストを行う。	・友だちの書いた文章を読み、よいところを見つけようとしている。 (主①)【観察・シール・ノート】

8 本時の指導

(1) 評価規準

- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。
(思考・判断・表現)
- ・友だちの書いた文章を読んで、良かったところや改善すべきところなどを伝えようとしている。
(主体的に取り組む態度)

(2) 研究テーマとの関わり

- ・前単元と学習の流れを同じにすることで、見通しをもって取り組めるようにする。
- ・思ったことや考えたこと、会話文などを入れることで、語彙が豊かな文章を書けるようにする。
- ・友だちに書いた文章を見てもらうことで、表現豊かで様子がよく伝わる文章を書けるようにする。

(3) 展開

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価 ●研究テーマとの関わり	資料
5	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	・学習計画や前時に書いた文章を確認して、本時の活動の見通しをもつことができるようにする。 ●前単元と学習の流れを同じにすることで、見通しをもって取り組めるようにする。	単元 計画表
	ようすがよくつたわる文になっているかをたしかめよう。		
20	2 前時に書いた文章を友だちと読み合い、よいところや内容の伝わりづらいところを伝え合う。 ようすがくわしく書けているか。 かんげいのない文はないか。	・教員のモデル文を添削したときのことを確認し、様子を詳しく書くときのポイントを確認する。また本題と関係のないことが書かれていたときには省くように伝えることも確認する。 ・見る視点を与えることで、直したり、付け足したりした方がよいところを見つけられるようにする。 ・読んだ人が気付いたことを付箋に書いて伝えることで、どんな助言があったのか分かるようにする。 ・悩んでいるところがある人は、友だちに相談してもよいことを伝える。	ノート 掲示物 付箋

		<ul style="list-style-type: none"> ・助言するところが見つからない児童にはよいと思ったところに付箋を貼るようにする。 ・どのように直したらよいか悩んでいる児童には掲示物を参考にさせ、書き加えられるところはないか、本題と関係のない文章はないか、考えるように声かけをする。 <p>○友だちの書いた文章を読んで、良かったところや改善すべきところなどを伝えようとしている。（主体的に取り組む態度）【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●友だちに書いた文章を見てもらうことで、表現豊かで的確な文章が書けるようにする。 ・友だちが書いた付箋の内容について、理解できなかったときには、聞きに行ってもよいことを伝える。 	
1 2	3 友だちにもらった助言をもとにして文章を直し、読み直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章をすべて消すのではなく、必要な部分だけを直したり、付け足したりするように声かけをする。 ・直し終わった児童から、自分の書いた文章を声に出して読み、誤字脱字などの確認をするように伝える。 <p>○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。</p> <p>（思考・判断・表現）【観察・ノート】</p>	
3	4 友だちとの交流を通して、わかったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの文章を読んでよかったと思ったことや、友だちからもらった助言から分かったことなどを全体に伝えるようにする。 	
5	5 学習の振り返りと次時の活動の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返り、できたこと、もう少しだったことなどを振り返りカードに書く。 	振り返りカード

(4) 板書計画

ピュンク…ピュンク
「ピュンク…」
「ピュンク…」

音が入っていいね。

くわくく書いていいね。

△友だちの文を読むときは
・ようすがくわしく書けているか。
・かんけいがない文はないか。

⊙
ようすがよくなった文に
なっているかをたしかめよう。

心のこもった文を書こう

15

あやとびができたよ
 高はし えり
 たいくの時間に、なわとびをし
 ていたら、近くにいたほのかちゃん
 さんがあやとびというわざを見せて
 くれました。手をこうささせてと
 んでいてすごいな、わたしもでき
 るようになりたいと、思いました。
 ですが、わたしは、うまくとぶ
 ことができませんでした。
 (くやしい、ぜったいにとべるよ
 うになりたい。)
 と、わたしは思ったので、それが
 らまい日、あやとびのれんしゅ
 をしました。休み時間も、いえに
 かえってからも、あせびしよりに

になるまで、いよいよけんめい
 れんしゅうしました。いえでれん
 しゅうをしていたら、お父さんが
 「おへその前で、手を大きくこう
 ささせるといいよ。」
 と、おしえてくれました。すぐ
 おづがしかったけど、できるよ
 うになりました。たので、れんしゅ
 をつづけました。
 そうしたら、たいくの時間に
 あやとびがはじめて一かいでま
 した。それを見ていたこうすけさ
 んが、
 「やったね。おめでとう。」
 と、言ってくれました。わたしは
 すごくうれしかったです。
 できなかったときは、わたしには
 おりかもしれないと、あきらめそ
 うになりました。でも、がんばつ
 てれんしゅうをつつけてよかったです。
 と思いました。これから、なわ
 とびをれんしゅうして、いろいろ
 なわざができるようになりたいで
 す。

第1回 単元名 「1学きの 思い出を かこう」 組み立て表

<p>おわり</p> <p>④ ⑤ またアンデルセン公 園に行きたいな。</p>	<p>中</p> <p>④ ⑤ 話すのいいね。 ④ ⑤ 話 かわいいね。 ④ ⑤ 海だよ。 ④ ⑤ 何をイメージしたの。 ④ ⑤ お手伝いしたいに てきえるかな。</p>	<p>はじめ</p> <p>④ ⑤ しんたくもつた</p>	<p>1学きの 思い出を 書いて</p> <p>④ ⑤ 文しょうの組み立てを 考えよう。</p>
	<p>④ ⑤ ポンドでピースをく ついたりするのが楽しかた</p>		

<p>おわり</p> <p>④ ⑤ つまぐで×アうれ しかった。</p>	<p>中</p> <p>④ ⑤ いした立てつくるのた のいいね。 ④ ⑤ たのしい。 ④ ⑤ 気がなぬめは、たらはみだ くそわい。 ④ ⑤ かんせいがたのしみだ ね。</p>	<p>はじめ</p> <p>④ ⑤ しんたくもつた ④ ⑤ おしれ、なにしんたく る。</p>	<p>1学きの 思い出を 書いて</p> <p>④ ⑤ 文しょうの組み立てを 考えよう。</p>
--	---	---	--

第1回 単元名 「1学きの 思い出を かこう」 児童の書いた文章

<A児>

ました。すべるいきおいがはか
たのどがくたのしかつたのでも
うーかいますりしました。つぎはま
えにおもむきつけたりスピードが
ましてぎもちよかつたです。
きもちよかつたね。
としました。つぎは、かぞく
ぜんいんでいっしょにあそんでみ
たいです。

いっしょにすべろ、たよ
5月25日は二年生ぜんいんでア
ンデルセン公園にいきました。ア
ンデルセン公園であそぶとき
きれいに
いっしょにすべろ
と言われたのでいっしょにすべり
たいです。

<B児>

しる。そのまもみずやりをっ
けた。お花がさいました。み
かくな。た。ともだちとみ
た。い。た。ともだちと
マト、大きくな。た。話
した。と。もうわ
た。

ミニトマトき。とても大切に育てて
いたことがよくわかります。大きく育ち
よかったです。

ミニトマトのなまをうえた
おもしろくもくし。た。い
うれしいと思。た。いし
ほしいとおも。た。
毎日おがちいてい。か。を
ち。てがちいてい。水やりを

〈文を読み直すときは〉

- ・だんらくのところが一ますあげ。
- ・会話文は、行をかえる。
- ・でで文を書きはじめない。
- ・「それ」を「それ」から「それ」
- ・「や」をつかて、文を長くしすぎない。
- ・「こう思いました」「こう言いました」などは書かない。

へメモに書くこと

- ・どうしてがんばろうと思ったか、
- ・どんなふうにならなうか、
- ・（とり組んでいるか）
- ・うまくいかなかったとき、どう思ったか、
- ・（どうしたか）
- ・できるようになったら、どう思ったか。

〈そのほか〉

- ・したこと
- ・見たこと
- ・気づいたこと
- ・話したこと
- ・聞いたこと

ようすをくわしくつたえるには

- ・いつ ↓ 学校で？ 家で？
- ・だれ ↓ 自分一人？ 友だちと？
- ・どんなことを ↓ するれんしゅう？
- ・パスのれんしゅう？
- ・何のために ↓ あいだかつたため？
- ・ボールをあい手にとられないため？
- ・どんなふうにかいっぱい？
- ・しゅう中して？
- ・どれくらい ↓ 一日一時間？
- ・毎回三十回？

気もちをあらわすことば

- ・くやし
- ・うれし
- ・かなし
- ・楽しい
- ・おもしろ
- ・びっくり
- ・た

組み立てひょう

おわり	中	はじめ
<p>○しょうがいそうでは リレーのせん手に かって一いになれた。</p>	<p>○家の人に、五十メー トルをはかってもら った。はしるときは 記ろくをとった。</p>	<p>○うんどう会のとぎよ うそうでリレーのせん 手といっしょにはしる ことになったから。</p>

はじめ

○うんどう会のとぎよ
うそうでリレーのせん
手といっしょにはしる
ことになったから。

○毎日、家に帰ったら
何回もはしるれん
しゅうをした。

○学校でうんどう会のはしるし
んばんがきます。てから、わたしは
家で毎日、はしるれんしゅうをし
ました。れんしゅうをしていたら、
お父さんが、
うてをたくさんふると、はやく
はしることが
できる。

○わたしは、はしるれんしゅうを
しています。どうしてれんしゅう
をはじめたかというところ、うんどう
会のとぎよ、うそやし、うがいそ
うでリレーのせん手と一いしょには
しるので、そのときまげずに一

○がんばっていること
たかばし
えり

これだとどんな
方ほうでれんしゅうしな
かからな
なれんしゅうの時間、どのよ
うに書くといいか
をかく

小さいやまは
このへやに書いて

行話かえり書く会話文はつづ
き

中

○家の人に、五十メー
トルをはかってもら
った。はしるときは
記ろくをとった。

○しょうがいそうでは
リレーのせん手に
かって一いになれた。

○わたしは、はしるれんしゅうを
しています。どうしてれんしゅう
をはじめたかというところ、うんどう
会のとぎよ、うそやし、うがいそ
うでリレーのせん手と一いしょには
しるので、そのときまげずに一

○学校でうんどう会のはしるし
んばんがきます。てから、わたしは
家で毎日、はしるれんしゅうをし
ました。れんしゅうをしていたら、
お父さんが、
うてをたくさんふると、はやく
はしることが
できる。

○わたしは、はしるれんしゅうを
しています。どうしてれんしゅう
をはじめたかというところ、うんどう
会のとぎよ、うそやし、うがいそ
うでリレーのせん手と一いしょには
しるので、そのときまげずに一

○がんばっていること
たかばし
えり

これだとどんな
方ほうでれんしゅうしな
かからな
なれんしゅうの時間、どのよ
うに書くといいか
をかく

小さいやまは
このへやに書いて

行話かえり書く会話文はつづ
き

だれにかたな
たのか、そのとき、
どんな気持ちだっ
たかを書く。

あ、は、行話
かえり、
の、ま、
に、
書く。

書き直した文

はしるれんしゅうを
はじめました
家に帰ってしゅう
くをいとおえたら
外がくらくなるまで、家の前の道
を、カいっばい、しんけんには
しりました。

書き直した文

しかし、うんどう会のはしるし
うでは、いつもリレーのせん手が
一いで、一どもかつことができま
せんでした。わたしは、すごく、
くやしくて、かなしが、たです。

第2回 単元名 「がんばったことをしょうかいしよう」 組み立て表

おわり	中	はじめ	がんばっていることをしょうかいしよう ④ しんじょうをきいて組み立てよう。
<p>④ 分からないうことがあったら、レッスンの日に聞いています。</p>	<p>④ お母さんといっしょに話を聞いて、読み聞かしてあげよう。</p> <p>④ しりとりは、うたや歌、お話をよむときにも、色やくだもの、ことばが、言えるようになって、く、れ、か、り、も、り、す、れ、ず、し、ん、じ、ょう、し、よ、う、と、思、わ、れ、よ、う。</p>	<p>④ しりとりは、うたや歌、お話をよむときにも、話しかけられたけど、わからなかったから。</p>	

おわり	中	はじめ	がんばっていることをしょうかいしよう ④ しんじょうをきいて組み立てよう。
<p>④ おじいちゃんやおばあちゃんより、おとうさんやお母さんより、がんばったことをしょうかいしよう。</p>	<p>④ まちがえなく、おとうさんやおばあちゃんに、お話を聞いてあげよう。</p> <p>④ 家でたくさんお話を聞いて、おとうさんやおばあちゃんに、お話を聞いてあげよう。</p>	<p>④ おとうさんやおばあちゃんより、お話を聞いてあげよう。</p>	

第2回 単元名 「がんばったことをしょうかいしよう」 ぶり返りカード

がんばったことをしょうかいしよう

1	たんげんの見通しをまじ、自分のがんばっているところを書き出さね。	自分のがんばっているところをき
2	×モの書いたものをよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
3・4	えらいところをうたげよう。友だちの話をきき、うたげよう。	友だちの話をきき、うたげよう。
5	「はい、中・おわり」のじゆんを×モを細読みして、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
6	れい文を見て、くわいてく書いた方がよいところをうたげよう。	くわいてく書いた方がよいところをうたげよう。
7・8	×モの書いたものをよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
9・10	書いた文をよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
11	作文のプリントをよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。

がんばったことをしょうかいしよう

1	たんげんの見通しをまじ、自分のがんばっているところを書き出さね。	自分のがんばっているところをき
2	×モの書いたものをよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
3・4	えらいところをうたげよう。友だちの話をきき、うたげよう。	友だちの話をきき、うたげよう。
5	「はい、中・おわり」のじゆんを×モを細読みして、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
6	れい文を見て、くわいてく書いた方がよいところをうたげよう。	くわいてく書いた方がよいところをうたげよう。
7・8	×モの書いたものをよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
9・10	書いた文をよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。
11	作文のプリントをよみ、えらいところをうたげよう。	えらいところをうたげよう。

第2回 単元名 「がんばったことをしょうかいしよう」 児童が書いた文章

<C児>・・・上位層児童

か し て て て て た で す。	か か り ま せ ん で し た け れ ど 一 点	び い り で は い し か ら お ま し た。	ら 木 で う れ い し と お も い ま し た。	た か く お が り ま し た。	し た。 そ う す る と ポ ー ル が す ご く	し た。 だ か ら た め し に や っ て み ま	か く お げ た ら い い よ う	こ に う つ が 考 え て う ち ま す。	こ う ま く い が な か た と さ は、	か し い お ぎ を お ん し や う し ま す。	ぼ ん の お ん し や う を し て か け ま す	い と 思 っ た か ら で す。	サ ツ カ ー を い 。ぼ い や 。て た の し	い ま す。 か ん ば っ て い る り ゆ う は	ぼ く は、 サ ツ カ ー を が ん ば っ て	か ん ば っ て い る こ と
--	--	--	---	--	---	---	--	---	---	---	---	--	---	---	--	---

<D児>・・・中間層児童

け で い き た い と 思 い ま す。	か り も い は い ん し う を つ	れ ず に い ん し ま し う を つ	し た 。け れ ど い ん だ ん お ぼ え て き ま	こ の お ん だ ん お ぼ え て き ま	語 を い は い ん し う し ま し た。	帰 っ て き た か ら お お ま さん と、え	う を い は い し ま し た。 学 校 が ら	こ の え 、 語 の お ん き よ う で れ ん し	な か ら か か ら で す。	で か か ら で す。	か じ よ う な し い 人 が え い 語	う を は じ め た か ら う と、え い 語	を し て い ま す。 ど う し て れ ん し	い れ た し は、 え 、 語 の れ ん し	こ の え 、 語
--	---	---	--	--	---	---	--	---	---------------------------------------	-----------------------------	--	--	--	---	-----------------------

第3回 単元名 「心にのこったことを書こう」 掲示物

・メモに書くこと
 ・えらんだ理由
 ・どんなことがあったか
 ・どんなことがあったか
 ・三年生になったら

<p>おわり</p> <p>友だちを大切にしたい ・いっしょだと楽しいから。</p>	<p>中</p> <p>ポニーを見た 大人の馬より小さい しっぽがかわいい。</p>	<p>はじめて</p> <p>歩いて行った ・ニキロメートルあった。 ・休けいでお茶をのんだ。</p>	<p>組み立てひょう</p> <p>はじめてのこと をしたから</p>
---	--	---	--

会話文は行をかえる!

のこりました。
 くみ子先生から
 のうぎょう高校まで
 メートルあります。長い
 すが、歩いていきます。
 と、言われたときは、
 くまで歩いていけるの
 いになりました。

わたくしが一番にのこ
 ことは、校外学し
 う高校に行っただこと
 ぎょう高校までみんな
 たり、ポニーを見たり、
 のことばかりだったの
 楽しかった校外学し
 高はしるえり

べん当やおかしを食べて、
 校外学しゅうでは、
 しながら、はじめての
 さんが、いけませんでした。
 だったので、これからも
 切にしていきたいです。

体の色、すわったかんじ
 やわりごちを入れる。
 メモにはないことだから
 書かない。

校外学しゅうの日、
 口の前にクラスごとに
 はつしました。晴れて
 日差しが気持ちよく、
 楽しくなりました。半
 てきたので、大きな木
 けいをしました。水とウ
 のみながら、かすみ
 「おいしいね、歩いて
 と、のこりもかんばろ
 と、言ってくれました。
 みんな、つかれていて
 います。わたしもかん
 ました。みんな、はげ
 ました。のうぎょう高
 は、すごくうれしかったです。

第3回 単元名 「心にのこったことを書こう」 組み立て表

おわり	中	はじめ	⑦ このはじめ、中、おわりに書きつけて、組立てよう。 心のこもったことを書こう
<p>三年に、な、た、ら、し、 はいせすに、ま、つ、び、 が、で、き、る、よ、う、い、な、り た、い、で、す。 六、年、生、の、お、く、る、れ ん、し、が、す、る。</p>	<p>あ、び、う、て、さ、 ん、ち、が、う、し、た、 こ、し、て。 ・心をこもって書いた ・六年生の前では、ま、う、は、 ま、ん、ち、が、う、す、る、な、</p>	<p>2、年、生、の、は、じ、め、 で、し、は、い、し、た、け、ど、 た、の、し、か、つ、た、か、ら、 ア、す、る。 え、ま、う、さ、し、ら、 ら</p>	
	<p>歌、が、ま、ち、が、 た、と、き、 ・かなしい ・つぎはがんばりたい</p>		

おわり	中	はじめ	⑧ このはじめ、中、おわりに書きつけて、組立てよう。 心のこもったことを書こう
<p>み、ん、な、の、お、く、り、 と、は、い、し、た、 と、お、く、ま、で、し、は、し、て、ま、 み、ん、な、の、お、く、り、 に、ゴ、ール、ま、で、は、い、 せ、す、る。</p>	<p>大、玉、ウ、チ、直、し、し、た、 の、う、ち、が、お、い、い、な、 の、う、ち、が、お、い、い、な、 の、う、ち、が、お、い、い、な、</p>	<p>う、ん、ど、う、お、く、り、 し、た、 い、い、</p>	
<p>つ、ぎ、の、う、ん、ど、う、お、く、り、 に、つ、ち、た、い、し、た、 な、</p>	<p>二、組、お、く、り、の、ま、で、ま、 り、て、く、ま、し、た、 は、あ、は、び、う、の、ま、で、ま、 り、て、く、ま、し、た、</p>		

第3回 単元名 「心にのこったことを書こう」 ぶり返りカード

心にのこったことを書く

1	かんそう	たけけんのお話を書きまじ、心にのこったことを書きました。 今日もまたさし、文を書けると思います。
2・3・4	かんそう	えいけんのお話を書きまじ、友だちと読み合いました。 友だちと読み合いました。
5	かんそう	「はやく中・おわり」のじゅんたんをききまじました。 楽しんで書くことができました。
6	かんそう	れい文を見、くわいて書いた方がよいことをはなはなしく話しました。 よか、分りました。
7・8	かんそう	友だちと、文を書き、声に出して読みました。 楽しんで書くことができました。
9	かんそう	書いた文を友だちと読み合いました。くわいて書いた方がよいことをはなはなしく話しました。 友だちの文をきき、よかったです。
10	かんそう	友だちの文をきき、よかったです。
11	かんそう	作文コンテストをするのが楽しかったです。

心にのこったことを書く

1	かんそう	たけけんのお話を書きまじ、心にのこったことを書きました。たくさんのお話を思い出させてくれました。
2・3・4	かんそう	えいけんのお話を書きまじ、友だちと読み合いました。 友だちと読み合いました。
5	かんそう	「はやく中・おわり」のじゅんたんをききまじりました。 楽しんで書くことができました。
6	かんそう	れい文を見、くわいて書いた方がよいことをはなはなしく話しました。 楽しんで書くことができました。
7・8	かんそう	友だちと、文を書き、声に出して読みました。 楽しんで書くことができました。
9	かんそう	書いた文を友だちと読み合いました。くわいて書いた方がよいことをはなはなしく話しました。 友だちの文をきき、よかったです。
10	かんそう	友だちの文をきき、よかったです。
11	かんそう	作文コンテストをするのが楽しかったです。

第3回 単元名 「心にのこったことを書こう」 児童の書いた文章

<E児>

です。ふたは学びのほは、びよは
 として、たのしが、たし、おもしろ
 が、たです。
 ぶ六年生のは、ひよは、六年生
 の歌がすごく、びくりましたし
 が、人どうしました。
 ぶ六年生みたいな歌声を出したい

さい高の六年生をおくる会
 れたしが、六年生をおくる会を
 えりんだ、理ゆは、み人なが、歌
 たり、おど、たりして、すごいと
 思、たがりです。
 ぶ学び、うと六年生のは、びよ
 ぶとくに、心のこ、たのは、ふた

<D児>

入らな、たこと、が、おもしろか
 たです。
 ほかに、ワニ、クニ、バニ、クを
 しました。
 ぶかいたん、な、もの、から、む、ず、か、し、い
 もい、が、あ、て、ぎ、も、し、ろ、か、た、で、す。
 ぶあたしは、三年生にな、て、も、
 ぶいろいろな、ゲーム、が、あ、て、楽、し、い
 ぶ朝よ、う、フ、エ、ステ、イ、バル、を、サ、リ、たい

朝よ、う、フ、エ、ステ、イ、バル
 あたしは、朝よ、う、フ、エ、ステ、イ
 ぶル、が、心、に、の、ニ、リ、ま、し、た。
 ぶな、ぜ、か、と、い、う、と、い、ろ、い、な、ゲ、イ、ム
 ぶあ、て、た、の、し、が、た、か、ら、で、す。
 ぶま、が、く、つ、と、ば、し、を、し、ま、し、た。
 ぶか、た、と、き、に、何、回、も、サ、リ、たい、と

第3回を終えての児童の変容

楽しかった校外学しゅう
 わたしが一番心のこもったことは、アンデルセン公園に行ってきたことです。理ゆうは、チームのみんなとお話しがいろいろあそびをして、とても楽しかったからです。こんなことをしたかというところ、
 シャンゲルジムや長いすべり台であそびました。ツインゲルジムは、とても大きかったです。あみものところをのぼって、たいへんだ。たけどとてもすごかったです。つづいて長いすべり台もとても楽しかったです。どんなかんじだったかというところ、とても長かったからずいぶん長いことができて楽しかったです。ははは、中ぐらいでした。とてもすべりやすかったです。
 この三年生になっても同じチームで活動したいです。理ゆうは、いろいろなあそびがあったとき、みんなのおんなが楽しんでいるのを見てくねると思うからです。

上記は、下位層の児童である。文章を書きたいと意欲的ではあるが、第1回の授業の実践のときには、友だちと話したことを全て事細かに文章化し、必要のないことも記述していた。
 自分が伝えたいことを中心として文を組み立てることの良さを理解し、第3回ときには、まとまりのある文章を書くことができた。

右記は、第一回で取り上げたA児である。教員が示した書く視点や見る視点を生かしながら、自分の文をどう直せばよいかを常に考え、学習に取り組んでいた。友だちに文章を読んでもらった後にも、もっと直すところはないかと、繰り返し文章を読んだことで、様子がよく伝わる文章を書くことができるようになった。

楽しかったボンバーゲーム
 ぼくが一番心のこもったことは、体いくの時間があったボンバーゲームです。なぜ、ボンバーゲームかというところ、キャッチボールがすきでボンバーゲームはキャッチしこおとさないようにするところ、
 ーいだったかいです。
 ボンバーゲームは一回目はまけました。くさしかったです。
 二回せんの前に作せん会をしました。作せんは、前とまん中と後ろで別ける作せんです。どうしてそのさくせんにしたかというところ、
 ーいだったかいです。
 ボンバーゲームは一回目はまけました。くさしかったです。
 二回せんの前に作せん会をしました。作せんは、前とまん中と後ろで別ける作せんです。どうしてそのさくせんにしたかというところ、